

講評

I

出典「流行りと仕来り」(小嶋博巳)松崎憲三編『人生の装飾法』ちくま新書 所収
行動様式の共有という観点から、ハヤリとシキタリの違いを整理しており、事例も豊富で読みやすい文章です。丁寧に読んでいけば、それほど難しい問題ではありません。
説明が必要と思われる設問のみ以下で解説します。

問1【漢字問題】(解答番号は①～⑩)

正答と正答率を示しておきます。

- a 生成(27%) b 含意(62%) c 増進(86%) d 創出(81%) e 内包(38%)

問2【言葉の意味】(解答番号は⑪・⑫)

選択肢の言葉を本文中で置き換えてみて首尾一貫するものを選びます。

問3【空欄補充】(解答番号は⑬・⑭)

空欄⑬の直後で、「時間を経てなお持続している」場合はハヤリではないと否定していますから、③「新奇性」が選べます。

空欄⑭を含む文だけ考えるとどれも入りそうで迷うかもしれません。しかし、ハヤリとシキタリを例示・総括して、文化とはこういうシステムだと述べていること、またハヤリやシキタリがともにローカルな文化で合理化できない性格のものだと主張している点を考慮すれば、まず⑤「正当化」は外れ、②「アイデンティティ」、③「模倣」もハヤリ、シキタリの一方だけに当てはまり、①「象徴」は論旨からそれほど重要な意味をもちません。残った④「約束」事としての行動様式を選びます。受験者には難しい問題であったようです。部分だけを見るのではなく、論旨を踏まえて解くようにしましょう。

問5【説明問題】(解答番号は⑯)

ハヤリが過去の人びとと共有されないという特徴の説明が求められていて、過去についての言及が含まれる③と⑤のうち、③は「新しいものを求め続ける」、⑤が「一時的に共有される」、人びとの行動様式を説明しているので、後者が正答です。

問9【説明問題】(解答番号は㉔)

「集団のアイデンティティの崩壊」ですから、①「あるべき行動の基準」④「人々の合理的な拠り所」が残ります。そしてシキタリもハヤリも合理性を持たないと主張されていますから、①が適当です。正答率は41%でした。

Ⅱ

出典『宇宙論と神』（池内了）集英社新書

古代ギリシャの天文学が神の絶対性や神秘性と次第に距離を置きながら発展する様相を説明しています。天の運動の解釈にどのような理論が用いられているかを時間的な展開に沿って正確に読み取ることがポイントです。

問1【適切な漢字選択の問題】（解答番号は21～30）

正答と正答率を示しておきます。

a 球殻(48%) b 開祖(69%) c 虚心(33%) d 位相(41%) e 示唆(95%)

問2【前後の文脈から適切な接続詞を選ぶ問題】（解答番号は31～33）

空欄Ⅰは前の事柄が原因・理由となって後の事柄が正当に導かれる役割を示しますから、正答は順接の⑧「ならば」です。空欄Ⅱは前の事柄に後の事柄を付け加える働きとなりますから、正答は添加の⑨「さらに」です。空欄Ⅲの前後で文脈が逆転しますから、正答は逆説の⑤「しかし」です。正答率は52%でした。

問3【前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は34～36）

空欄甲の前で「月下界と天上界を区別せずに」とあるのがヒントです。正答率は45%でした。空欄乙の直前にある「天が提示している運動を読み解く」に注目すれば難しくはありません。正答率は81%でした。空欄丙を含む前後の段落を踏まえる必要があります。正答率は93%でした。

問4【前後の文脈から適切な文を選ぶ問題】（解答番号は37）

空欄アの直前にある「客観世界の認識法」については神に頼る部分が全く考慮されていません。

問5【前後の文脈から適切な文を選ぶ問題】（解答番号は38）

空欄イには、膨大な観測データの「精度を高めることから出発」して「改良主義の道を歩んだ」を踏まえて、「現実と合うよう」に操作をおこなったことを示す文が入ります。

問6【内容理解に伴う傍線部の説明問題】（解答番号は39）

宇宙秩序の解釈にピタゴラス学派は数学的原理を導入したため、宇宙の中心に神を据える従来の理解に変化が生まれたという文脈が認められます。

問7【傍線部に関わる内容理解の問題】（解答番号40・41）

①・③が正答になります。②・④・⑤・⑥は、いずれも「自分たちの思念」とは基本的に無関係な計測や算定などを記述したものにすぎません。正答率は38%でした。

問8【内容理解に伴う傍線部の説明問題】（解答番号は42）

傍線部Cは直前の「そうであるなら」を受けて成り立っている文ですから、したたかな技術者の意向を汲み取って、「天の運動を地上に再現する試み」の具体化としてアンティキテラの機械を捉える必要があります。①「星に手が届くような感覚」と②「願いは必ずかなう」は文脈と関係がありません。③「惑星運動の持続性は証明できる」と④「天文学の理論を用いれば秩序を解明できる」は、傍線部Cの具体例ではありません。⑥「工学技術は限界を確定できる」は本文にありません。正答率は38%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は43・44）

③のアリスタルコスの「地動説宇宙」は、数値計算の誤りから異端視されたわけではありません。⑥のエラトステネスが地球の大きさを計算しようとしたのは、天の神への篤い信仰によるものではありません。正答率は27%でした。